

温かい 繋がる 支え合う 学び合う

山梨 YMCA 岡島デイサービスセンター

ぶどうの木



〒400-0031

甲府市丸の内1-21-26

甲斐物産ビル7F

Tel・Fax:055-235-5021

e-mail:grape@alto.ocn.ne.jp

ぶどうの木のご利用につきましては上記まで御相談ください。

わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。ヨハネによる福音書15章5節

ぶどうの木では今

2017年、「不安な年明け」と感じたのは私だけだろうか。何年振りかで孫の帰省のない静かな年末・年始を過ごした。元旦に届けられた分厚い新聞にゆっくり目を通した。新年らしく明るいと感じられる紙面は、スポーツ欄の若者の活躍くらいであった。「私たちはどこにいるのか」の見出し。どのページを開いても目にとまる「不安」という文字。「人間全体がどこに向かっていいのかわからない。上り坂にいるのか、下り坂なのか、実感もできない」と。(作家:川上弘美氏談、朝日新聞)

一方昨年10月、1000人以上の方の在宅での看取りをされている医師、長尾和弘氏の講演を聴いた。(山梨ホスピス協会) 先生は多くの高齢者やがん患者さんと出会うなかで綴られた「親の『老い』を受け入れる」という自作の詩を紹介された。その一部を引用させていただく。

老いるということ、親が老いるということ、それは何度も同じ話をするということ、歩くのが遅くなるということ、膝や腰が常に痛いということ、食べる量が減ること、トイレが近くなること、もう生きているのが嫌と言い出すこと、言葉が咄嗟に出なくなること。言葉は咄嗟にでなくても心のなかに想いはちゃんとあるということ、どんどん不安になるということ、それは萎んでゆくこと、うとうととする日が多くなっていくとい

うこと、この世とあの世の境目が少しずつ曖昧になっていくということ。命の仕舞い方をあなたに教えてくれているということ、それは最後のプレゼント(その部分は省略させていただいている)

ぶどうの木をご利用の方々は、この長尾氏の詩「老いるということ」を少しだけ後から続く私共にリアルに知らせてくださっている。神から「いのち」をいただいている者の自然な摂理「老い」や「病」の不安である。ご利用の皆さんからのプレゼントとして受け止める日々でありたい。老いや病も下り坂ばかりではない。上り坂と想える日々が多いことを願い祈りたい。今年も「ぶどうの木」は、一般にいう先の見えない不安な年として憂いたり、暗く考えたりする雰囲気はないと信じて進みたい。「安心を作り出すのは、相手と対面し見つめ合いながら、状況を判断する『共感力』であり、互いの思いを汲み取って信頼関係を築き、安心を得ることだ」という。(京都大学総長:山極寿一氏談、朝日新聞)

ぶどうの木に連なって下さるご利用の皆さんの老いや病の不安と共に歩み、共感し、涙み取りつつ、少しでも安心に変えて、共に穏やかに過ごしたいと願う新年であった。

管理者 小野 興子

2016年度 ぶどうの木クリスマス会

将来、こんな風でありたいと職員間で話題に上ることが、利用者さんと子供たちとの触れ合い。12月8日(木)11時から58名の参加者が集いロイヤル会館で行われたクリスマス会は、まさにそんな風景が具現化されたものでした。YMCAつぼみグループ(2~3歳児)の子供たち、韮崎ダグラスこども園年長



組の子供たち、それに加えてB職員の子供2人が参加してくださり、利用者さんと一緒に歌ったり踊ったりと至福の時を過ごすことができました。利用者さんお一人おひとりの顔が、キラキラと輝いていたクリスマス会でした。



この仕事に就いて

介護職員 田中 直美

昨年の4月から、素晴らしい職場であるとの従兄の紹介で、勤務させていただくことになりました。

私の母は、認知症・骨折などを患い施設や病院に長いことお世話になり7年前に他界しました。その間、私は施設や病院へ母に会いに行き、歌を唄ったり、ゲームをしたりして、解らないながらも微笑む母の顔を見て安心し、献身的に面倒を見て下さっている職員の皆様に感謝しながら帰路につく毎日でした。

母が亡くなり、施設や病院に行く日課と気持ちの張りを無くした心のなかに、私も介護の仕事を通して、お年寄りの笑顔に出会い少しでもお役に立ちたいとの思いが湧き、資格を取ることを決めました。

「ぶどうの木」の一員として働かせていただくようになっ

て9か月が過ぎました。最初は自分に出来るだろうかと不安でしたが、利用者さんの皆様は、とても温かく、心優しく接してくださり、今では皆様にお会いできるのがとても楽しみです。ちょっと疲れている顔をしていると反対に私の身体を気遣ってくださり、励ましの言葉をかけてくださいます。母にまた会えたような、そんな温かく懐かしい気持ちになります。感謝の日々です。

職員、ボランティアの皆様には、いつもパワーと優しいお心遣いをいただき本当にありがとうございます。

ここで仕事ができる喜びをひしひしと感じながら、これからも少しでもお役にたてるようにと思っています。

ご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、今後ともよろしく願いいたします。

ボランティア便り⑥

ボランティアはリハビリ

堀内 玲子

教会の方からお話があって月1回程度ならと参加させていただき1年5か月になります。

「身延」からうかがうので皆さんに「遠くからご苦労様」と言われるのですが、私にとっては電車に乗って甲府に行くのが楽しみなのです。身延駅で切符を買い、沿線の四季折々の風景を眺めるのは飽きることがありません。お城の石垣や県庁の建物を鑑賞しながら「ぶどうの木」に向かうのも快適です。デイサービスでは皆様とお話やゲームをしたり、お食事のお手伝いをさせていただき、いろいろ教えていただくことが多く、良い刺激になっています。

終了後はデパートなどを覗き、最後にお弁当を買って電車でぐっすり！ お役にたっているかはわかりませんが、年齢に関係なく利用者の方、スタッフの方と今できることをして支え合っていくのが理想と思います。こんな高齢の私がお思わずに「リハビリ」をさせていただいている感覚で続けさせていただきたいです。

ケア塾「生活リハビリの達人へ」

昨年7月よりお仲間になっていただいた理学療法士・望月貴美さんより機能訓練について学びました。個別性を重んじた訓練は利用者さんからも高い評価を受けております。11月26日(土)に、利用者さん・ボランティア・職員20名の参加がありました。ユーモアたっぷりの講義は、納得、納得と頷かせる奥の深い内容で「生活行為に勝る訓練なし」との言葉が特に印象的でした。講義を受けて、更に良い援助をしたいと心から思ったものです。



ぶどうの木に感謝

利用者家族 一瀬 香音子

「ぶどうの木で、これ作ったんだよ。こっちはおじいさんの、そっちは私のだよ。」実家へ行くと、母はクリスマスツリーや折り紙工作・絵手紙など、父と母がぶどうの木で作った四季折々の作品を見せてくれます。そして、ひ孫や孫や私たちに、その作品をプレゼントしてくれます。

孫育てや娘の看病が終わり、数年前までは父と母二人きりの静かな日常生活でした。それが、ぶどうの木へ通うようになってからは、話し相手ができたり声を掛けてくれる方が増えたりと、適度な刺激のある生活に変わりました。二人が生き生きと過ごす時間が増えたことにとっても感謝しています。ぶどうの木の昼食はとても美味しく、おやつは量もちょうどよいとのことで、母はとても気に入っています。岡島での買い物も、実益を兼ねた楽しみになっています。口腔ケアや入れ歯の手入れ・爪切り・入浴などは、二人の生活の質を高めています。ぶどうの木には、看護師の資格のある方がたくさんいて、一人ひとりに寄り添って対応して下さるので有難いです。家に帰りたくなった父と家まで一緒に歩いて下さったこと、熱を出し具合が悪くなった時に医師の往診を依頼して下さったことなど、感謝してもきれません。これからもお手数をお掛けすると思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

ぶどうの木ギャラリー 10月～11月

甲府千塚文協 絵手紙部による絵手紙の展示を行いました。二十数名による沢山の作品に圧倒され、その豊かな作風に利用者さんは喜ばれました。

